

田辺市

Tanabe City

自然豊かな歴史と伝統のまち

未来へつながる道
田辺市



田辺市勢要覧

Tanabe City Municipal Guidebook

令和3年7月

発行 和歌山県田辺市

〒646-8545 和歌山県田辺市新屋敷町1番地

TEL.0739(22)5300

<http://www.city.tanabe.lg.jp/>



W 世界遺産のまち、 田辺市

CONTENTS

歴史・文化

- 1 W 世界遺産のまち、田辺市
- 3 熊野本宮大社への道のり
- 5 熊野信仰の拠点「熊野本宮大社」
- 7 田辺市の宝物
- 9 ふるさと歳時記
- 11 田辺ゆかりの偉人たち

産業

- 13 おもてなしの観光を目指す
- 15 海、山、川でアウトドア体験
- 17 ひとの手とモノづくり
- 19 まちを元気に まちづくりの人々
- 23 田辺グルメを召し上がれ
- 25 梅を守り、価値を高める
- 27 紀州田辺のみかん
- 29 強く美しい紀州材
- 30 豊かな黒潮の恵み

教育

- 31 生涯学習のまち／地域で子育て
- 32 スポーツを通じた交流を

福祉

- 33 支え合い、つながる地域福祉

環境整備

- 35 暮らしやすさと安全のために

防災

- 37 災害に強いまちづくり

議会

- 39 より良い市政を進めるために
- 41 市長挨拶
- 42 田辺市の市章 / 田辺市民憲章 / 田辺市の木・花・鳥
- 43 主な年間イベント / 田辺市シティマップ



田辺市の概要

平成17年5月1日、5市町村の合併により誕生した田辺市は、紀伊半島の南西側、和歌山県の南部に位置する近畿最大の行政区域を有するまちです。

みなべ町、印南町、日高川町、有田川町、奈良県野迫川村・十津川村、新宮市、古座川町、上富田町、白浜町にそれぞれ隣接しており、西よりの海岸部に都市的地域を形成、そこから東向きに森林が大半を占める中山間地域が広がっています。主な水系としては日高川水系・富田川水系・日置川水系・熊野川水系の4水系を抱える広大な圏域です。

気候は海岸部の温暖多雨な太平洋型気候から山間地における内陸型の気候まで広範囲にわたっています。

また、田辺市は、和歌山県・奈良県・三重県にまたがる三つの霊場とそこにつながる参詣道、それらを取り巻く文化的景観で構成するユネスコの世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の中心地に位置しています。さらに、地域環境を生かし、高品質な梅を持続的に生産してきた当地域独特の農業システム『みなべ・田辺の梅システム』が国際連合食糧農業機関の世界農業遺産に認定されており、田辺市は二つの世界遺産を有するまちでもあります。

Tanabe City was created on May 1, 2005 with the merger of five municipalities. Located in southern Wakayama Prefecture on the southwest side of the Kii peninsula, it comprises the largest administrative area in the Kinki region. In addition, the "Minabe-Tanabe Ume System" was registered as Globally Important Agricultural Heritage Systems for producing high-quality plums.

総面積：1,026.91km²（東西約46km・南北約47km）

※総面積は、平成27年10月1日現在の、国土地理院の公表値によるものです。

総人口：71,276人 男：33,545人 女：37,731人 世帯数：35,143世帯（令和3年6月末現在）



熊野本宮大社に向けて 縦横に伸びる道のり

平安時代から鎌倉時代にかけて上皇やその后などの女院が、熊野参詣の旅をしました。この旅のことを熊野御幸と呼んでいます。「御幸」とは、上皇や法皇、女院の外出のことで、天皇の場合は「行幸」といいます。

907年の宇多法皇の御幸から987年の花山法皇、その後、1090年の白河上皇が熊野に御幸して以来、白河・鳥羽・崇徳・後白河・後鳥羽の五上皇が参詣を繰り返すことになりました。

また、1217年、後鳥羽上皇と修明門院の御幸には814人のお供がついた記録が残されていますが、お供をする貴族のお供も含めるとかなりの人数であったと思われます。

京都を出て熊野三山に参詣し、戻るまでの行程は約1か月といわれています。熊野への参詣道には、紀伊路(紀路)・伊勢路・小辺路の3ルートがあり、紀伊路は、田辺で中辺路と大辺路に分かれます。後白河法皇撰による歌謡集(平安時代末期)に「熊野へまいるは紀路と伊勢路のどれ近しどれ遠し 広大慈悲の道なれば紀路も伊勢路も遠からず」という歌が残されています。

藤原為房の「為房卿記」や源師時の「長秋記」、藤原定家の「熊野御幸記」などから代表的なル



トをたどると、京都から船で淀川を下り、大阪・堺を経て紀伊半島西岸を海沿いに南下し、田辺へ向かいました。ここからは東へ転じて山中を進み、本宮へ。その後、新宮・那智を経て、再び本宮に戻りました。上皇や女院は、全ての行程を徒歩で行くのではなく、川では船に乗ったり、陸では輿に乗ったりしながら、途中の王子社では相撲や舞を奉納しつつ旅の疲れを癒やしていたようです。参詣道には、熊野権現の御子神を祀る王子社が建立され、道の整備とともに増えていき、藤原定家の記録(1201年)には既に80以上の王子社が記されています。

Between the Heian era (794-1185) and Kamakura era (1185-1333) many retired emperors and their wives embarked from Kyoto for the Kumano pilgrimage. On their one-month journey to pray at the three grand shrines of Hongu, Shingu, and Nachi, these pilgrims would bring along as many as a thousand attendants.

歴史の道、信仰の道 熊野古道の案内人

「熊野本宮語り部の会」会長の坂本勲生さんは、熊野古道が世界遺産に登録される前の昭和63年から語り部となりました。現在、「熊野本宮語り部の会」には60歳代の方々を中心に約30名のメンバーが登録されています。歴史や文化をはじめ、動植物のことなど、観光客からのあらゆる質問に答えられるように定期的に集っては研修を重ねています。

平成16年の世界遺産登録から、熊野古道を歩く観光客は外国人も含め年々増加しています。「時間ができると訪れたくなる場所」として何度も訪れる人も多く、熊野古道は、あらゆる人を優しく包み込む不思議な力にあふれた場所といえます。

「素晴らしい自然の中に『祈りの道』が今も残されていることに、語り部である私自身がいつも感動をもらっています。語り部の役割は、単に熊野古道の歴史や伝説を説明するだけではありません。何よりも大切なのは、観光客と地元の人がコミュニケーションをとることです。説明をしながら歩く道すがら、茶摘みをする人や農作業をしている人たちと会話を楽しんでもらうようにしています。地元の人が地元言葉で、地元の食文化や情報を楽しそうに話すと。これが最高の『おもてなし』だと思うのです」と坂本さんは言います。

文化・伝統は、伝え続けなければなくなってしまうもの。坂本さんは、三里小学校の校長を退職後、小学校のボランティアグループ「語り部ジュニア」を作りました。何度も熊野古道を歩き、自分たちで地図を作り、歴史や文化を勉強して、実際に観光客を案内しているのです。これらの活動を基に、平成27年度から、田辺市内全ての小中学校が、ふるさとについて語る「田辺市地域語り部ジュニア」に取り組んでいます。



田辺市熊野古道語り部ジュニア
近野小学校(上)と三里小学校(下)



熊野本宮語り部の会 会長
坂本 勲生さん

The Kumano Hongu Guide Association has about thirty registered guides, mainly in their sixties. They hold periodic study sessions on everything from history and culture, to plant and animal life, with a goal of being able to answer all of tourists' questions.



神門が開いた時、真正面に神殿があるのは全国でも熊野本宮大社のみです。目の前に神様が現れることを意味し「心の門」と呼ばれています。

人々を惹き付ける熊野信仰の拠点

「熊野本宮大社」



大斎原の大鳥居

熊野三山の一つ、熊野本宮大社は、もと大斎原と呼ばれる、熊野川とその支流の音無川・岩田川が合流する中州に鎮座していましたが、明治22年の大水害によって倒壊流出したため、同24年に現在の場所に遷座しました。御祭神は「熊野十二所権現」と呼ばれる十二柱で、主祭神は「家津御子大神」です。大斎原のイチイの木に、神が三体の月となって降りたという伝承から、信仰の起源が自然崇拜にあると想像されます。

熊野の大自然に靈威を感じた古の人々は、始めにそれを土地の神として祀ったのですが、熊野を修行の場と定めた修験者たちの働きもあり、熊野に対する信仰が広まっています。



桐唐草双輪鏡
瑞祥を表す亀や鶴を配し、下方には五三桐の桐唐草文を大きく表した和鏡で、技法から室町時代後頃頃の製作といわれています。



鉄湯釜
源頼朝公が奉納したもので、奈良東大寺所蔵の「鉄湯船」に次ぐ日本で二番目に古い釜です。湯立神事に使用していたものと考えられています。



牛王と起請文
本宮神職の各家で取り決めごとを交わした起請文です。冒頭には熊野古来の御札「熊野牛王神符」を貼り付けています。



剣（銘：上野大掾國益）
密教で山中を駆け回る修行の折に護身用として使用したもので、現在でも修験者が護摩法要を営むときに法具として用いています。

熊野への参詣で、難行苦行の道のりを終えて、たどり着く熊野本宮大社は、「甦りの地」「再生の地」として古来より多くの人々が訪れた聖地です。平安時代には都の上皇や法皇、貴族たちの熊野参詣が盛んになり、以降の時代には、若男女を問わず全てを受け入れる神として知られ、ますます参詣者が増えています。その様子は「蟻の熊野詣」と表現されるまでになりました。

世界遺産に登録された後も、その魅力が評価され、国内外から観光客が訪れます。

※熊野本宮大社の社殿は、平成7年に国の重要文化財に指定されました。

After a journey filled with hardship and difficulties, pilgrims finally arrived at the Kumano Hongu Taisha Grand Shrine. Since being designated as a UNESCO World Heritage Site, it has gained fame and recognition, and attracts many visitors from both Japan and abroad.

現在だからこそ 求められる熊野の役割



熊野本宮大社 宮司
九鬼 家隆さん

創建2050年の歴史を刻んできた熊野本宮大社は、熊野三山の一つ。それぞれの神社は時間的な意味合いを持っており、熊野速玉大社は「過去」を表し、過去の自分を見つめ考える場所。熊野那智大社は「現在」。今の自分の立ち位置をしっかりと確認する場所。そして熊野本宮大社は「未来」。未来に向かって祈りをささげる場所であるといわれています。

熊野本宮大社は、地域にとってどのような存在であり、今後どのように関わっていくのかを、熊野本宮大社の宮司 九鬼家隆さんに話を聞いてみました。

「熊野は古来より『甦りの地』『再生の地』と言われる。その中で熊野の役割は祭りなどを通じて人々に元気を与え、気持ちのよりどころとなる場所であることです。令和3年は、3月に東日本大震災から10年を迎え、また同年9月には紀伊半島大水害から10年という一つの大きな区切りの年であり。さらに、令和2年から世界中で猛威を振るう新型コロナウイルスが今もなお人々を苦しめています。現在だからこそ、一歩でも半歩でも『前』に向けて歩んでいただきたいと思っています」

According to Ietaka Kuki, the head priest of Kumano Hongu Taisha Grand Shrine -- "Kumano has been called the land of 'resurrection' and 'regeneration' since ancient times and it is a place where many people feel at ease and revitalized. Now, with COVID-19 rampant all over the world, even if they must take baby steps, I hope that people can keep pushing forward."

時を経て、未来に受け継ぐ 田辺市の宝物



闘雞神社 国指定史跡・名勝・国重要文化財

通称「権現さん」と呼ばれ、市民から愛されている闘雞神社は、熊野三山の別宮的存在で熊野信仰の一翼を担っていました。平家物語壇ノ浦合戦の故事によると、源氏平氏の双方から援軍を要請された武蔵坊弁慶の父とされている熊野別当滋増（熊野水軍）が、どちらに味方をするかの神意を確認するため赤と白の鶏を戦わせ決めたとはいわれています。



ユノミネシダ自生地 国指定天然記念物

ユノミネシダは、熱帯及び亜熱帯地方に産する大型の美しいシダで、根茎によって繁殖し、葉の伸び方はウラボシに似て二股に分かれる特徴があります。日本における分布の北限に当たることから、国の天然記念物に指定されるとともに、最初の発見地である湯峯の地名をとって植物名にしたものです。



田辺城水門 市指定史跡

周辺一帯は会津川河口に築かれた田辺城の城下町としてにぎわいました。田辺城は、元和5年（1619年）、浅野氏が築いた湊城の跡に、田辺領主となった安藤直次が築城したといわれています。



住吉神社の社叢 (オガタマの木) 県指定天然記念物

住吉神社は、宝永年間（1704～1711年）の勧請といわれる歴史ある神社であり、社殿の背後には県内最大の大木（樹高27m・幹周4m）を誇るオガタマの木があります。



高原熊野神社本殿 県指定有形文化財

正式名称は「熊野神社」で、高原地区の産土神です。樹齢1000年ともいわれる見事な楠の木に包まれたこの社殿は、中辺路沿いでは最も古い神社建築です。



磯間岩陰遺跡 国指定史跡

岩陰を利用した墳墓で、5世紀後半から6世紀代のものといわれています。竪穴式石室には田辺湾を根拠地とした漁獵民の長が、鹿角装鉄剣や釣針・鮎・貝輪などの副葬品で飾られ葬られたといわれています。



上御殿本館 国登録有形文化財

旅館「上御殿」は、江戸時代初めに当時の紀州藩主徳川頼宣公が龍神温泉へ湯治に訪れるために建てられた宿で、現在の建物は、明治18年に再建されたものです。旅館内にある「御成りの間」は、床が一段高く作られ、格式ある雰囲気を持っています。



吉野熊野国立公園

三重県・奈良県・和歌山県の紀伊半島3県にまたがって位置し、国により指定された優れた景観を有する公園です。神島や天神崎、奇絶峽なども吉野熊野国立公園に含まれています。

神島 国指定天然記念物・名勝

田辺湾に浮かぶ神島は「おやま」と「こやま」の2島からなり、古くから森林が保全され、ハカマカズラをはじめとする暖地性の貴重な動植物が数多く生息しています。南方熊楠翁が生物の宝庫として調査・研究、保全活動を行い、昭和天皇に御進講したことでも知られ、それを記念して詠んだ歌碑もあります。※森林保全のため上陸禁止です。



天神崎 国指定名勝

日本のナショナル・トラスト運動の先駆けとなった天神崎は、干潮時には13haもの平らな岩礁が姿を現す自然の宝庫です。背後の丘陵地には海岸林や湿地帯があり、セトウチサンショウウオなど珍しい動植物が見られます。

鳥巣半島の泥岩岩脈 国指定天然記念物

鳥ノ巣半島の南西海岸に干潮時、約1.5kmもの岩脈が走ります。地殻変動でできた砂岩の割れ目に、液状化した泥岩層が噴出して固まったものが泥岩岩脈で、地質学的に貴重なものとなっています。

田辺市の主な文化財

名称	指定別	所在地等
三栖廃寺塔跡	国史跡	下三栖
高山寺貝塚	国史跡	稲成町(高山寺)
磯間岩陰遺跡	国史跡	磯間
熊野参詣道	国史跡	中辺路・大辺路(闘雞神社)
天誅組志士幽閉の倉	県史跡	龍神村小又川
鮎川王子跡	県史跡	鮎川
田辺城水門	市史跡	上屋敷
百間山溪谷	県名勝・天然記念物	熊野
神島	国天然記念物・名勝	新庄町
鳥巣半島の泥岩岩脈	国天然記念物	新庄町
オオウナギ生息地	国天然記念物	富田川
栗栖川亀甲石包含層	国天然記念物	中辺路町北郡
ユノミネシダ自生地	国天然記念物	本宮町湯峯
蟾蜍岩	県名勝	稲成町
新庄町 奥山の甌穴	県天然記念物	新庄町
野中の一方形	県天然記念物	中辺路町野中
住吉神社の社叢	県天然記念物	鮎川

名称	指定別	所在地等
熊野本宮大社社殿	国重要文化財	本宮町本宮(熊野本宮大社)
闘雞神社社殿	国重要文化財	東陽(闘雞神社)
高原熊野神社本殿	県有形文化財	中辺路町高原
木造家津御子大神坐像	国重要文化財	本宮町本宮(熊野本宮大社)
速玉大神坐像	国重要文化財	本宮町本宮(熊野本宮大社)
夫須美大神坐像	国重要文化財	本宮町本宮(熊野本宮大社)
附木造天照大神坐像	国重要文化財	本宮町本宮(熊野本宮大社)
鉄湯釜	国重要文化財	本宮町本宮(熊野本宮大社)
田辺祭	県無形民俗文化財	東陽(闘雞神社)
紀州備長炭製炭技術	県無形民俗文化財	広域
上野の獅子舞	県無形民俗文化財	下川下
下川上の流れ施餓鬼	県無形民俗文化財	下川上
野中の獅子舞	県無形民俗文化財	中辺路町野中
湯登神事・御田祭	県無形民俗文化財	本宮町本宮
平治川の長刀踊	県無形民俗文化財	本宮町本宮
カモシカ	国特別天然記念物	紀伊山地
上御殿本館	国登録有形文化財	龍神村龍神

田辺市は、平成16年に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産登録された熊野古道、熊野本宮大社をはじめとする、自然・歴史・文化的資源の宝庫です。特に世界遺産には、霊場と参詣道だけでなく、その周辺に広がる森林・農耕地・集落など人の営みにより培われてきた文化的景観も含まれています。田辺市では、これらの景観を含めた数々の遺産を守っていくために、「田辺市歴史文化的景観保全条例」を制定しました。昔から山や木、巨石、風や雷をも神と崇め祈りをささげてきたからこそ、有形・無形を問わず、多くの自然・文化財などが大切に守り継がれてきたのです。悠久の歴史に想像力を膨らませながら史跡や文化財を巡りまちなちを歩けば、更に田辺市の魅力を感じることができます。

Tanabe's many tangible and intangible assets are rooted in the nature and traditions of the region, and have been cherished and protected to this day. Walking around the cultural historic sites with an expanding imagination, you can feel the charm of Tanabe City.



ふるさと 歳時記

ゆのぼり 熊野本宮大社の湯登神事

熊野本宮大社の例大祭は、4月13日の「湯登神事」から始まります。宮司以下の神職・氏子・伶人（楽人）・氏子総代・稚児（2、3歳の男児）ら総勢40～50人が列を成して湯の峰温泉を出発し、太鼓に合わせて神歌を歌いながら熊野本宮大社を目指します。熊野の神は稚児の頭に宿るとされており、神事の間以外は稚児を地面に降ろしてはならず、移動の際はウマ役の父親が肩車をします。（県の無形民俗文化財指定）

The annual festival of the Kumano Hongu Taisha grand shrine commences on April 13th with rites of purification at the Yunomine Onsen (Hot Spring). A procession of forty to fifty people then embarks for the shrine, singing sacred songs to the rhythm of taiko drums.



まちを彩る時代絵巻

田辺祭

県の無形民俗文化財である田辺祭は、世界遺産に登録された鬨籠神社の祭礼であり、450年以上の歴史をもつ紀南地方最大の祭礼にして「紀州三大祭」の一つにも数えられます。元和五年（1619年）徳川頼宣が新たに紀州藩主となり、その附家老であった安藤直次が田辺領主となった際に城下町の整備が行われ、その頃に現在のような祭の形式が整いました。田辺祭が行われるのは7月24日、25日の2日間。うだるような暑さの中、各町（旧城下の8つの商人町）の笠鉾が旧市内を曳き回すその様子は、京都の祇園祭に似ているといわれています。祭りには「お旅所勤め」「住矢の走り」「会津橋曳き揃えく曳き別れ」「七度半の使い」「流籠馬式」といった見どころも多く、県内外から多くの見物客が訪れます。



きならさんばそう 杵荒神社の三番叟

毎年10月上旬、中辺路町栗川の杵荒神社境内で安産・縁結び・五穀豊穡を祈願し、3日間奉納芝居を行います。江戸時代中期から約300年の伝統が受け継がれており、現在も地区の青年が中心となって小学生たちも加わり保存、継承しています。（市の無形文化財指定）



上野の獅子舞

下川下にある春日神社の秋の例祭に奉納される獅子舞の歴史は古く、室町時代まで遡ります。毎年11月3日に行われ、五穀豊穡と地域の安全を祈願して舞われるこの獅子舞は、「上野獅子舞保存会」によって継承されています。（県の無形民俗文化財指定）



おいえ 小家神楽

龍神村甲斐ノ川にある荒島神社で、毎年11月3日に行われる一年間の豊年満作・家内安全・交通安全などの感謝の秋祭りに奉納される神楽です。祭りの最初に福井・甲斐ノ川・小家の3地区が一度に獅子頭合わせを行い、神輿の聞きあいや獅子舞など、見事な神楽が演じられます。（市の無形民俗文化財指定）



野中の獅子舞

毎年1月3日と11月3日に中辺路町の近野神社と継桜王子へ奉納される獅子舞です。南北朝時代の初期、近露の野長瀬一族が、大塔宮護良親王の御軍の士気を高める出陣の舞としてこの獅子舞を演舞したと伝えられています。今日の獅子舞は、江戸時代末期に土地の庄屋が従来の古座流の舞に新しい流儀を取り入れて完成したといわれています。（県の無形民俗文化財指定）



芳養八幡神社の秋祭

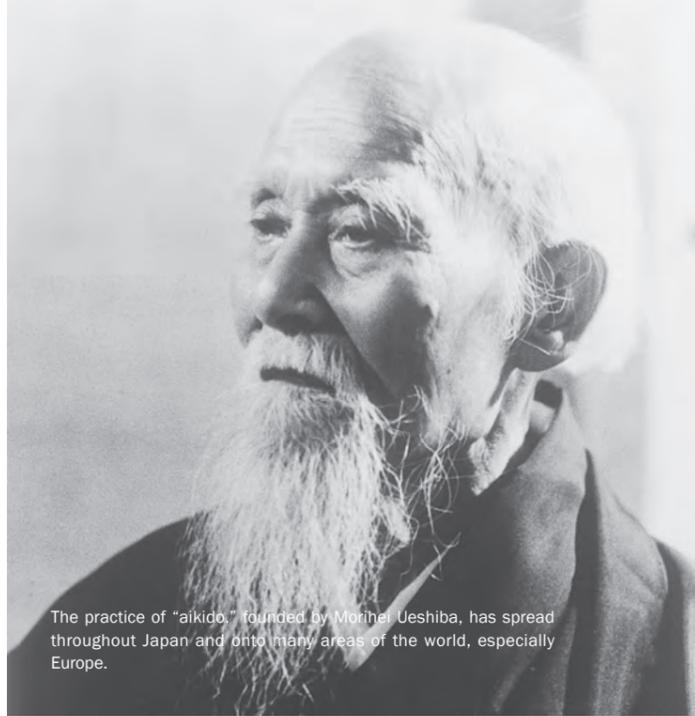
平安時代から続く歴史ある神社で、毎年11月2日、3日にかけて行われる祭礼では、八幡神の勧請を模した神輿渡御が行われるほか、見どころの流籠馬や馬駆神事では、氏子や観衆の喝采が響きます。また、宮入の時などで歌われる馬子歌は情趣に富んでいます。（県の無形民俗文化財指定）

合気道の開祖

植芝 盛平

うえしば もりへい

1883年-1969年



The practice of "aikido," founded by Morihei Ueshiba, has spread throughout Japan and onto many areas of the world, especially Europe.

「合気道の創始者である植芝盛平翁は、私にとって神様のような存在です」田辺市内で合気道場を主宰し、その普及に努める五味田聖二さんが、盛平翁に初めて会ったのは小学4年生のときだと言います。「当時、身体の弱かった私を心配して親が道場に連れてきたのですが、正式に道場生になったのは中学1年生のときでした。大先生（盛平翁）は、私に技術よりも心の修行、つまり精神の修行が大切であることを教えてくれました」

合気道の理念は、武道を通



植芝盛平翁顕彰会 理事長 五味田 聖二さん

して多くの人に出会い、「和合」を尽くすこと。田辺市立武道館正面玄関前にある両手を広げた盛平翁の銅像は、「技」と共に「宇宙の和合精神」を表現しているといわれ、盛平翁が創始した合気道は、日本はもとよりヨーロッパを中心に世界各地に広がっています。



植芝盛平記念館 合気道経験者だけでなく、合気道未経験の方にも盛平翁や合気道の魅力を感じていただける施設となっています。

田辺ゆかりの偉人たちの

世界的な博物学者

南方 熊楠

みなかた くまぐす

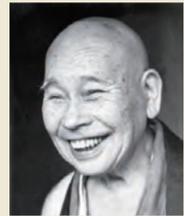
1867年-1941年

和歌山県が生んだ博物学・民俗学の巨星「南方熊楠」は、東京大学予備門退学後、アメリカ・キューバ・イギリスに游学し、数多くの論文を発表しました。「ネイチャー」掲載の論文数では、いまだに日本人で彼の右に出るものはいません。特に変形菌（粘菌）の研究は有名で、彼の名前の付いた「ミナカタラ・ロンギフィラ」があります。今から100年前に「エロギー（エコロジ）」という言葉を使い、神社林伐採による生態系破壊の危機に対して反対運動に奔走し、自然環境を守りました。「継桜王子・野中の一方杉」をはじめ、熊野古道には今も熊楠ゆかりの神社や神社林が点在しています。



Kumagusu Minakata, Wakayama Prefecture's renowned naturalist and folklorist, spent the latter half of his life in Tanabe. He published many dissertations of his studies, and began using the word "ecology" long before others. He also took measures to protect the environment.

山本 玄峰 (やまもとげんぼう) 1866年-1961年



本宮町生まれで、24歳の時に失明後、四国八十八箇所の霊場巡りに出ました。全国を回って修行を続け、白隠慧鶴の古刹を再興します。'45年、鈴木貫太郎首相に終戦を勧め、「象徴天皇制」を提案するなど、鈴木首相の相談役も務めました。

Genpo Yamamoto, who became blind at the age of 24, served as an advisor to Prime Minister Suzuki, recommending the end of war in 1945.

脇村 義太郎 (わきむらよしたろう) 1900年-1997年



田辺市生まれで、昭和から平成の経済学者であり、東京大学名誉教授でもあった脇村氏は、海運・保険・石油などの世界経済や経営史を研究しました。財閥解体・海運業界再編など数多くの産業政策に参画し、'88年から'94年まで日本学士院長を務めました。

Yoshitaro Wakimura, a scholar of economics in the Showa (1926-1989) and Heisei (1989-present) eras, was a professor emeritus at Tokyo University.

片山 哲 (かたやまてつ) 1887年-1978年



田辺市生まれで、東京帝国大学法学部独法科卒業、弁護士となります。社会民衆党の結成に参加し、書記長に就任します。'30年、衆議院議員に初当選し、以後、当選12回を数えます。戦後、日本社会党結成に参加し、'47年、内閣総理大臣に就任、'63年に政界を引退しました。

Attorney Tetsu Katayama was first elected to the House of Representatives in 1930, and went on to serve as Prime Minister in 1947.

高川 格 (たかがわかく) 1915年-1986年



田辺市生まれで、本因坊戦9連覇の功績により名誉本因坊として「高川秀格」と号し、後に二十二世本因坊を贈られました。「流水不争先」を信条とする昭和を代表する名棋士です。'74年に紫綬褒章、'85年に勲三等旭日中級章など多くの受賞、褒章を得ました。

A renowned master of the game of "igo," Kaku Takagawa received the Purple Medal of Honor in addition to many other awards.

小川 琢治 (おがわたくじ) 1870年-1941年



田辺藩儒学者 浅井家に生まれました。地学の研究を志して、日本各地を調査し、日本列島の地質二重構造説・日本アルプスの低地氷河存在説などを発表します。'26年、帝国学士院会員に任命されました。湯川秀樹・小川芳樹・貝塚茂樹らの父です。

Takuji Ogawa carried out research in geosciences throughout Japan, and published many treatises.

野長瀬 晩花 (のながせばんか) 1889年-1964年



中辺路町近露生まれで、谷口香嶽に師事しました。その後、官展に反する姿勢を示し、個展などで作品を発表します。'18年には土田麦僊らと国画創作協会を創設し、日本画壇に新風を吹き込みました。また、信州の画家、詩人と白炎社を結成し、芸術文化運動に貢献しました。

The painter, Banka Nonagase, brought new influences into the Japanese art scene.



国立科学博物館蔵

菌類のうち、キノコについても多くの努力を費やしました。乾燥標本だけではなく、彩色図に専門的な記載文を付けたものを約4000枚も作成しました。

南方熊楠顕彰館 南方熊楠邸

1867年、和歌山市に生まれた南方熊楠翁は、後半生を田辺で過ごしました。熊楠翁の死後、遺族によって邸宅（南方熊楠邸）や資料は保存されてきましたが、平成12年に長女・文枝さんが亡くなり、その遺志によってそれらは田辺市に寄贈されました。平成18年、旧邸の隣に南方熊楠顕彰館が開館。熊楠翁が遺した2万5000点以上の蔵書や資料を保存・研究するとともに、熊楠や熊楠のまち田辺の情報を発信しています。また、熊楠翁が研究の場とした邸宅は、熊楠存命時の状態に復原し、庭とともに公開しており、往時の雰囲気を感じることが出来ます。



南方熊楠顕彰館 館長 松居 竜五さん



熊野トラベル
駅前商店街内で田辺市熊野ツーリズムビューローが着地（地元）での現地情報やネットワークを生かした「着地型観光」を展開しています。



市街地活性化施設 tanabe en+
JR 紀伊田辺駅前にあり、施設の1階は地域製品のプロモーションカフェ、2階はセミナーやテレワークで利用できるワーキングスペースを運営しています。

まちの魅力を掘り起こし、おもてなしにあふれた観光を目指す



田辺市観光センター（外観）

田辺市は、神秘的で奥深い森林や渓谷、世界遺産に登録された熊野古道や熊野本宮大社に代表される史跡、そして日本三美人の湯の一つである龍神温泉や日本最古の湯といわれる湯の峰温泉といった秘湯があります。また、自然環境保全の象徴である天神崎や扇ヶ浜海水浴場など、人々の心と身体を癒やす自然と文化にあふれたまちです。

観光情報発信の拠点として、田辺市の玄関口であるJR 紀伊田辺駅の隣に建設された「田辺市観光センター」では、和歌山県内全域の観光パンフレット等を約100種類常設しているほか、英語対応可能なスタッフが常駐し、紀南観光の各種相談に応えています。また、「田辺市街なかポケットパーク」、「世界遺産熊野本宮館」、「熊野古道館」でも、地域に根差した観光情報を積極的に

発信しています。

世界遺産登録以降、国内外から観光客が増加。多様化する旅行者のニーズにきめ細かい対応ができるよう、観光客と地域をつなぐ役割を持つ「田辺市熊野ツーリズムビューロー」が着地型観光事業に取り組んでいます。さらに、市内各地域の観光協会との連携により、それぞれの地域の特性を生かした個性的な観光地づくりや観光資源の掘り起こし、新たな旅行商品の開発など、市民の共感と協力を得ながら活発な活動が行われています。

そして、令和2年、「市街地活性化施設 tanabe en+」がJR 紀伊田辺駅前にオープン。地域の魅力発信や起業・創業支援などを通じて、地域と来訪者の縁を結び、新たな交流と協働を生み出す拠点として、期待が寄せられています。

Tanabe is a city overflowing with culture and nature—a place that soothes both mind and body. It features mystical forests and valleys, Ogigahama Beach, Tenjinzaki Cape, and other scenic places. Its onsen (hot spring) include Yunomine, Japan's oldest known onsen, and Ryujin, one of Japan's three beautifying onsens. Among its historical sites are the Kumano Hongu Taisha grand shrine and the UNESCO World Heritage Registered Kumano Kodo Pilgrimage Route.



世界遺産 熊野本宮館
熊野本宮大社や旧社地「大斎原」を望む地にあります。観光情報や地域情報を発信する拠点としての役割を担っており、248席の多目的ホール・展示スペース・図書コーナーなどもあります。



熊野古道館
中辺路町内の12の王子社にちなんで12角形の建物が目印です。熊野古道中辺路の情報発信の拠点で、熊野の聖域への入り口である滝尻王子の向かいにあります。



街なかポケットパーク
關雞神社の参道横に位置する市街地散策の拠点施設です。観光ボランティアガイドも常駐し、市街地のまち歩き案内や電動アシスト自転車のレンタルサイクルも行っています。



龍神温泉



湯の峰温泉

海、山川でアウトドア体験



きらめく太陽と海

「田辺扇ヶ浜海水浴場」は、砂浜が扇形をしているところから、その名称が付いたファミリー向けのビーチです。令和元年には、その隣にビーチバレーやビーチサッカー等が楽しめるビーチスポーツ場がオープン。JR紀伊田辺駅から徒歩約10分、南紀田辺インターチェンジから車で約10分の場所に位置し、すぐ近くには400台収容の市営駐車場もある利便性から、毎年多くの来場者でにぎわいます。また、周辺には、黒潮の恩恵を受けた釣りのポイントが多数あり、四季を通じて磯釣りや船釣りなども存分に楽しめます。



ビーチバレー大会

At Tanabe's Ogigahama Beach, aside from activities like beach soccer and volleyball, there are also several nearby fishing spots to enjoy.



緑の中で風と遊ぶ

近年、ハイキングやトレッキングを目的とした観光客が急増しています。歴史をたどりながら熊野古道を歩く人や、季節の移り変わりを楽しもうと護摩壇山を訪れる人、キャンプやバンガローで宿泊し、温泉を堪能する人など様々。一人旅はもちろん、日常とは異なる風景、新鮮な空気と自然に包まれる心地良さを家族連れやグループでも楽しむことができます。また、地域の約9割が森林であることから、軽い山歩きは特に人気で、里山を歩くと、地元の人との会話や宿泊先でのおもてなしなどの様々なコミュニケーションも魅力となり、リピーターが多いのが特徴です。



護摩壇山の紅葉



田辺川湯キャンプ場 (川湯野営場 木魂の里)

Walking in the mountains is very popular, for ninety-percent of Tanabe's area is covered in forests. Pleasant conversations with the locals and the warm hospitality of lodgings, draws many visitors back for repeated stays.



清流を満喫

豊かな森林や溪谷が自慢の田辺市には、川のレジャーも豊富です。清流でしか生息しない鮎やアマゴ釣りをはじめ、カヌーや滝遊び、川での水遊びのほか、マイナスイオンをたっぷり受ける体験型レジャーの人気の年々上昇しています。小さな子供から高齢者まで年齢を問わず楽しめるのが川レジャーの特徴で、無理なくそれぞれのペースで自然を相手に遊ぶことができます。田辺市内を流れる熊野川や日高川、日置川、富田川そして左会津川などは、多くの人の癒やしの場として親しまれています。



百間山溪谷 かやの滝



鮎釣り

River sports and leisure activities are increasingly popular, which include ayu and amago fishing (fish found only in clear streams), swimming, canoeing, and playing around the waterfalls.



松煙

しょうえん
堀池 雅夫さん

日本でただ一人「幻の墨」を昔ながらの製法で作っているのは、鮎川で工房を営む堀池雅夫さんです。自然災害等で折れたり枯れたりしたアカマツを10年以上置いておくと、周りの部分は白く腐って、脂の多い赤身だけになります。それを小割りにして不完全燃焼で燃やして煤を取っていきます。小さな炎でゆっくりと燃やすため、5分おきに松をくべ足すのですが、500kgの松を1日8時間、計100時間ほど燃やしてようやく

10kgの煤が取れるという大変な作業です。集めた煤に膠を少しずつ加えながら乳鉢に入れて丁寧に練りこみ、乾燥させて墨が完成するまで約半年間の時間を要する貴重な墨が「松煙墨」です。「松煙墨」は何と言っても、その美しい滲みと青みを帯びた黒い色にあり、書道家だけでなく芸術家にも愛用者が多くいます。堀池さんは顔料を混ぜて色を付けた墨「彩煙墨」を作るなど、伝統を守りながら新たな取組にも挑戦しています。

松煙墨の歴史は古く、飛鳥時代に中国から日本にもたらされたといわれています。江戸時代以降、各地で松煙による造墨が盛んに行われましたが、近代になるとコストの安い鉱物油が使われはじめ、昭和30年代には途絶えてしまいます。和歌山県でも200軒ほどの業者がいましたが、過酷な労働に加えて松材が入手困難になり、同じ頃途絶えてしまいました。
◀枯れて死んでしまったかのような松を割ると、脂をたっぷり含んだ赤身が姿を現します。

"Sho-en-boku" is a type of ink stick produced from painstaking labor using pine soot. Thought to have come from China in the Asuka era (approx. 538-710), this is the only place in Japan that it is produced.

「常に高品質な世界一の炭を作るのが、私たち炭焼き職人の仕事です」胸を張ってそう言うのは、秋津川にある紀州備長炭記念公園内の窯で炭を作る職人さんたち。
紀南地方の山間部で行われている紀州備長炭づくりは、樹齢20〜40年のウバメガシの原木を切り出し「木ごしらえ」という作業から始まります。これは、曲がつたウバメガシをまっすぐにする作業で、高品質な備長炭づくりのために欠かせない工程です。奥の方から窯に詰められた後、窯口で火を焚き、煙の色が変わるまで3〜5日ほど焚いて口を塞ぎ、220度〜650度ほどの温度で、6〜9日間かけてしっかりと炭化させていきます。その後、窯口を少し



江戸時代の元禄年間に備中屋長左衛門が、秋津川で焼かれていた白炭に「備長炭」と名付け、売り出しました。今では田辺市の特産品となっています。

紀州備長炭

ずつ開けて空気を送り、じつくり温度を上げていき、精錬をかけます。その後、炭化した原木を窯口近くに寄せ、かき出して、空気にあてて一気に1200度近くまで高めてから引き出します。そこに土と灰を混ぜた消し粉「素灰」をかけて空気を遮断し、消化することで焼き締めます。職人が約15日間かけて作り上げた紀州備長炭は、世界に誇る高品質な炭として知られています。「さらに時間を掛けじつくりと焼くと、ヒビの少ない美しい備長炭ができ、燃料としてだけでなく、工芸品の材料としても求められています」と言います。
古くから受け継がれてきたこの製炭技術は、昭和49年、県の無形民俗文化財に指定されました。



右から
村上 悟朗さん
滝尻 哲雄さん



ひもの手まくり

皆地笠

みなちがさ
芝安男さん

和歌山県知事指定伝統工芸品に認定されている「皆地笠」を作るのは、本宮町皆地に暮らす芝安男さんただ一人です。その昔、この地方に隠れ住んだ平家の落人が、香り高い檜を使って笠を編み出し、熊野詣での人々に広く愛用されるようになった

といわれています。いつからか産地の名前をとって「皆地笠」と呼ばれるようになりました。
山に入り、節のない樹齢60年以上の檜を見極め伐採した後、木が柔らかいかいうちに「材」にしていく作業は、大変根気のいる仕事で、1つの笠を



阿闍梨笠

芝さんが作る笠は、檜の脂分が出て雨が降ってもそれははじくため、修行中の行者が使う「行者笠」や僧侶が使う「阿闍梨笠」などの注文も全国から寄せられました。時を経てあめ色に変化しても機能性はそのままといえます。

"Minachigasa" is a conical hat made with a lubricant from cypress trees that repels rain. Orders for this hat come from all over Japan.

作るまでに7つの工程があり、それぞれの材料を作るところから全て手作業。「檜を薄く均等に削る」「材」作りが一番大切なんです。これを間違えるとぎつちりと編めないんです。芝さんは子供の頃から父親の仕事を見て育ち、その作り方を覚えたと言います。「昔は他にも8軒ぐらい笠を作る家もあったけど、今では私だけになりました。大阪や奈良から弟子入りを志願してくる人もいますが、作り方の本があるわけでもなく、いい檜の選び方が書いてある物もないですからね。途中で断念していききましたね」
後継者がいないのは本当に残念ですが、今でも軽さと雨をはじく特性から川釣りの人や農家の人たちに重宝されています。



まちを元気に まちづくりの人々



秋津野ガルテン
木村 則夫 さん

移転改築した上秋津小学校の旧校舎を活用し、都市と農村の交流施設「秋津野ガルテン」が誕生したのは平成20年。ここを拠点とした新しい農村の形が全国から注目されています。上秋津地区は、梅、柑橘栽培が盛んで、農業が地域を支えてきたという歴史があります。平成6年には、都会にはない、香り高い農村文化社会の実現を図るため、地域づくり塾「秋津野塾」を結成。地域の課題を共有し、官民一体となって地域内外の交流を大切にしながら、「農」を中心とする地域づくり活動に取り組んできました。コミュニティと経済活動を一体化させた取組が高く評価され、平成8年には農林水産省表彰事

住民の手による、農業を軸とした地域づくり

業「ゆたかな地域づくり表彰天皇杯」を受賞しています。そして、「農業を軸として地域の価値を創り、そこに暮らす人を減らさない」といった目標を掲げつつ、新たな事業としてグリーンツーリズムの推進や秋津野ITグリーンオフィスを建設し、IT企業との連携によるスマート農業に向けた取組も始まっています。このような新たなソーシャリティの創出は、田辺市の農村地域の牽引役として、今後も期待されています。安心して暮らせる地域づくりを住民自らが考え、行政と協力して実行していくことこそ「地域の活性化」であることを上秋津の住民は、行動で見せてくれています。



Tanabe City have hosted personnel training initiatives such as the Tanabe Mirai Souzou Juku (future creation school) which aims to solve regional issues using business methods, and also the Tanakoto Academy, a lecture series which aims to connect Tokyo residents with Tanabe. As a result, sustainable development is well underway for future generations.

人と人とのつながりで、持続可能なまちづくりへ



BokuMokuは、熊野の山を守るため、虫食い材である「あかね材」を活用した家具製作などの木材ブランディングに取り組んでいます。

人口減少が起因となり、地域課題が山積する中、「たなべ未来創造塾」をはじめとした多様な人材育成事業を連動させる「人」を中心としたまちづくりが、地方創生の先進事例として全国から注目を集めています。「たなべ未来創造塾」では、講義を通じて、塾生自らが解決できる地域課題を探し出し、地域課題と企業課題の両方を解決できるビジネスを数多く生み出すことで、地域と企業の協働によるCSV（共通価値の創造）を実践。塾の修了生を中心としたチーム「BokuMoku」など、事業者同士の連携による新たな事業が生まれ、地域経済の好循環につながっています。そして、人材育成事業により輩出した地域を担う地元の人材と、地方との



たなべコトアカデミーの皆さんが、東京の青山ファーマーズマーケットにて田辺市産の柑橘類や紀州南高梅の販売などを行っています。

関わりを求めている都市圏住民や都市圏企業などをつなぐことで新たな「関係人口」が次々と生まれています。平成30年から首都圏在住者と田辺市をつなげるための関係人口講座「たなべコトアカデミー」を開講。田辺市でのフィールドワークなどを通じて田辺市についての理解を深めるとともに、地域の現状を肌で感じています。こうした関係人口が、それぞれの関わり方で地域の新たな担い手として活躍。地域課題の解決につながることも、結果として移住に結びつくなど、市内外の「人」が輝くことで、未来へつながる持続可能なまちづくりが進んでいます。



お菓子体験工房「パレンシア畑」

The former Kamiakizu Elementary School building has been remodeled into Akizuno Garden, a facility that acts as a bridge between urban and rural. Here, local administration and residents cooperate to engage in community development activities centered around agriculture.

秋津野ガルテンには「宿泊棟」、スローフードと地産地消にこだわった農家レストラン「みかん畑」、お菓子体験工房「パレンシア畑」などがあります。



農家レストラン「みかん畑」



銀座通り商店街
よこや ゆういちろう
横矢 雄一朗 さん

横矢さんは、平成30年から音楽イベント「ミュージックストリート」を開催。また、令和元年には、「花火で彩る田辺祭」を実行するなど、様々なイベントでまちなかのにぎわいを取り戻そうと活動しています。

「田辺には、既に魅力的な文化や歴史がたくさんあります。単なるイベントではなく、その本当の魅力に気付けるように間口を広げた企画で、地元の方や子供たちにも改めてまちの魅力を伝えていきたいです」

こう話すのは、自分自身が子供の頃の田辺での思い出に惹かれ、都会からUターンしてきた経験があったから。『参加型』をキーワードに展開されるイベントを通じて、まちが好きな住民が増え、活性化の原動力となることが期待されています。



銀座通り商店街
ミュージックストリート

小学生の合唱部、高校生の吹奏楽部や地元の音楽ユニットなどが発表し、商店街を盛り上げました。また、フラダンスの発表、商店街以外の店舗の出店など、活動は年々広がりを見せています。



花火で彩る田辺祭

少子高齢化で田辺祭の参加者が減少する中、若い世代に文化的な魅力を伝えるため、有志で田辺祭の見どころである笠鉦と衣笠の曳き揃え時に花火を打ち上げ、多くの反響がありました。

Mr. Yokoya is working hard to revitalize the city center with various events, some of which involve live music and fireworks.

今あるものを生かして魅力を再発見



コンペティション部門では、審査員に映画有識者や映画検定合格者、映画ファン等を迎え、「弁慶グランプリ」「キネマイスター賞」を決めます。観客の投票等による「観客賞」や受賞作品の都内上映なども特徴です。

近野（近露・野中）地域は、世界遺産である熊野古道の滝尻王子から熊野本宮大社までの中間部にあり、古くから熊野詣での宿場町として栄えた地区。そんな近野をもっと知ってもらおうと活動している人たちがいます。

「日本画家『野長瀬晩花』の生家を修復整備して、『近露観光交流館（ちかの平安の郷かめや）』として平成25年7月から地域の人々と観光客との交流の場として活用しています。また、野中の継根王子の横にある休憩所『とがの木茶屋』でも、熊野古道を訪れる人々を温かくおもてなししています。」

運営しているのは地域住民。そこ



とがの木茶屋

熊野古道の休憩所として、古道案内・手作りのしおりの無料配布やお茶のふるまいで旅人をおもてなししています。



近露観光交流館
ちかの平安の郷かめや

地元食材のレストランが営業しているほか、野長瀬晩花の資料展示や住民向けの様々な教室などが行われ、人々の交流の場となっています。

The Chikatsuyu Tourism Salon (Chikano Heian-no-Sato Kameya) is a rest place where local residents share historical and tourist information with visitors. Created to foster exchange between locals and tourists, it is located in the childhood home of the famous painter Banka Nonagase.

地域の人と観光客との交流の場

にUターンの若い世代も加わり、地域力の維持、活性化につながっています。



ちかの平安の郷推進協議会
会長 鉄山 富弥雄 さん

映画祭を通じて、交流人口の増加と映画文化の振興を図ることで、田辺市へ来訪された映画関係者と市民とのコミュニケーションが活発になり、それが地域活性化につながる。ように「田辺・弁慶映画祭」が平成19年10月に初めて開催されました。以来、毎年回を重ねるうちに、商業映画デビューを果たす監督が輩出されるなど、新人映画監督の登竜門となる映画祭として評価が高まっています。

当初、スタッフは地元の有志が大半で、手作り感覚の映画祭でしたが、着実にその内容は濃いものとなり、近年では応募作品の増加に比例して、コンペティションのレベルも高くなっ

ているほか、スタッフの人材育成への取組なども充実してきました。

映画祭実行委員長の中田さんは「子供からお年寄りまで幅広い年代の方々が映画に興味を持ってくださるとうれしいです。1年を通して公民館やいろんな施設で映画の上映会をするなどして大きく広げていき、多くの映画ファンを田辺市に集めたいですね」と話します。

文化的事業はすぐに経済効果に結び付くものではありませんが、そういった意識の向上は、やがて大きなうねりを作り、まちを活性化していく力を生み出していくことになりそうです。

Since 2007, the Tanabe Benkei Festival has been held annually. The highly acknowledged festival has introduced works that make a commercial film debut.

映画祭を通して地域の文化的活性化を



田辺・弁慶映画祭 実行委員会
実行委員長 中田 吉昭 さん



最高級ブランド 「紀州南高梅」を守り、 その価値を高めていく



世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」を次代に継承

田辺市の年間平均気温は、16〜17度と温暖で、降水量も多く、また幅広い土壌に適合する梅の特性から梅栽培が盛んで、梅干し以外にも様々な用途に適した「南高梅」、果実が美しく梅酒に最適な「古城梅」、赤い梅酒や梅シロップができる「パープルクイーン」など、高品質な「紀州梅」が栽培されています。また、隣接するみなべ町とともに日本一の梅産地を形成しており、この地域で全国の梅の半分以上を生産しています。社会や環境に適応しながら四百年にわたり継承されてきた農業技術、農文化、景観、生物多様性は、国際連合食糧農業機関（FAO）により「みなべ・田辺の梅システム」として世界農業遺産に認定されました。

田辺市では栽培・加工・流通など、梅に関する産業が盛んで、田辺市を大きく支えており、「紀州梅」の認知度を更に高め、「梅システム」を次代に継承するため、生産者をはじめ、JA・梅加工業者・行政が協力し合い、産地振興に取り組んでいます。また、梅酒や梅干しの消費を喚起させようと、「田辺市紀州梅酒による乾杯及び梅干しの普及に関する条例」を制定しています。

JA 紀南生産販売連絡協議会

委員長 小芝 鉄也 さん

紀州の梅づくりは、先人たちから代々受け継がれてきたことによって、日本一のブランドとなっています。今では、その生産の仕組みが世界農業遺産としても認められ、地域の誇りにもなっています。

このブランドを守り続けるために、地域一体となって担い手の育成や生産量の確保に取り組みながら、梅の健康面への効用など、様々な価値をPRしていきたいです。



紀州田辺梅干協同組合

理事長 大谷 喜則 さん

梅は古来から、保存の効く食べ物・薬として重宝されてきました。紀南地方の主産業として存続し、今も和食の伝統的な食材の一つとして多くの人々に愛されています。紀州梅干が将来においても、日本一の梅産地として継承できるよう、梅生産農家・加工業者・JA・関係団体、行政機関と連携し更なる梅産業と地域の発展のために歩んでいきたいと思ひます。



Tanabe together with the neighboring town of Minabe form the largest Ume plum producing region in Japan, responsible for the production of more than half of the country's Ume. Local producers, processors, JA (Japan Agricultural Co-operative) and local administration all cooperate to promote the GIAHS-designated (Globally Important Agricultural Heritage Systems) Minabe-Tanabe Ume System and to pass on its legacy to future generations.





田辺市柑橘振興協議会
会長 法忍 岳史さん

潮風と太陽の恵みを たっぷり受けて育つ 紀州田辺のみかん

1年を通じて約80種類の柑橘を収穫

田辺市のみかんは、紀南特有の温暖湿潤な気候を生かして栽培されています。温州みかんをはじめ、ポンカン・デコポン・はっさく・清見オレンジ・ネーブル・三室柑などの晩柑類まで豊富な品種が栽培されており、ほぼ1年を通じて約80種類のみかんが収穫されています。

一般的に「みかん」と呼ばれるのは「温州みかん」で、皮は薄くむきやすく、程良い甘さと酸味があることから、昔から親しまれています。その中で9月から収穫が始まるのが「極早生みかん」で、青さが残り酸味が少し強いのですが、すっきりとした風味とさわやかな香りが特徴です。10月頃から

は「早生みかん」へと移行していきます、その中でも、年末年始にかけて早生みかんをじっくり樹上で熟させた「木熟みかん」は、酸っぱさが和らぎ、甘味が一気に増し、コクのある味になります。温州みかんが終わる頃から出荷が始まるのが晩柑類で、様々な品種の特色ある味を楽しむことができます。

紀州田辺のみかんは、栽培に適した気候であることに加え、生産農家の絶え間ない努力によって良質の柑橘類が生産され、全国トップクラスの品質を誇っています。

田辺市柑橘振興協議会の法忍岳史さんは、「田辺市のみかん農家

さんは、やりがいを感じ、こだわりの持つてみかんづくりをしている人が多い」と言います。

試験場でも新品種の研究をしており、そこには農家の方たちの経験と知識が必要で、共に協力を惜しまず取り組んでいます。

柑橘栽培は、後継者が多く育っており、今後若い人たちの活躍が更に期待できる産業でもあります。



Tanabe's citrus cultivation takes advantage of the region's uniquely warm and wet climate. Approximately eighty varieties of citrus are grown throughout the year. In many communities, citrus cultivation is passed down through generations, and has been entrusted to its capable new youth generation.



イサキ

田辺市は「イサキ」の漁獲量が県内1位を誇っており、これをもっと多くの人に食べてもらおうと「紀州いさぎ」としてブランド化に取り組んでいます。「紀州いさぎ」は、手釣りという漁法で一尾一尾丁寧に釣り上げ、船倉で活かしたまま帰港し、水揚げ前に活けはじめることにより、抜群の鮮度で出荷しています。



ヒロメ

「ヒロメ」は、ワカメと同種同属の海藻で、全国でもごく限られた海域にしか分布していない非常に希少な海藻です。柔らかくてとろみがあり、しゃきしゃきとした独特の食感・歯ごたえが特長で、地元では春を告げる海藻として高い人気があります。また、「紀州ひろめ」という名称で、ブランド化に取り組んでいます。

田辺周辺の海域は、黒潮の恵みにより水産資源の種類は多く、一本釣り漁業やまき網漁業、船曳き網漁業などが行われています。主な魚種は、アジ・サバ・シラス・イサキ・カツオで、他にもイセエビやイカ等の水産動物や海藻のヒロメなどが漁獲されています。比較的漁業条件に恵まれた海域ではあるものの、近年、漁業を取り巻く環境は厳しさを増しており、漁獲量の減少や魚価の低迷、漁業従事者の高齢化や後継者不足が課題となっています。このため、各種魚類の種苗放流や「つくり育てる漁業」の推進等を支援し、水産資源の維持・増大を図るとともに、販路や消費の拡大に取り組むこと



シラス

伝統こびきあみの小曳網漁法は、広げた網を少しずつ人の手でしぼるのでシラスの体を傷つけない漁法です。現在は効率的なパッチ網が主流ですが、磯間地区では小曳網漁法での漁も行っていきます。

Thanks to the Kuroshio Current, the waters around Tanabe are home to many natural resources. In order to maintain and cultivate these resources, we are working to expand markets and increase consumption.

黒潮の恵みをブランド化し 安定供給に取り組む

で、漁業後継者の確保や漁業経営基盤の安定化に取り組んでいます。また、地元で漁獲された魚の高付加価値化を図るため、これまで初夏に旬を迎える「イサキ」と春先には収穫できない海藻である「ヒロメ」を中心にブランド化を推進し、魚価の底上げに向けた取組を進めています。



強く美しい良質の紀州材を育て、 流通させる

紀州木の国と呼ばれるほど良質な杉や檜は、地域全体の経済を支えてきました。高度経済成長期には多くの人が林業に関わり、基幹産業として栄えていましたが、昭和39年以降、安価な外材が大量に輸入されるようになり、地域の林業は、次第に低迷していきました。しかし、近年、再び紀州材が、注目を集めるようになってきました。国内の建築物では、その気候風土で育った木材が適していることが再認識され、また年輪の詰まった木目が特徴の紀州材は、地震などの災害にも強いということが広く知られるようになったことも要因の一つといわれています。龍神村森林組合は、昭和40年代から地域ぐるみで「龍神材（紀州



龍神村森林組合 代表理事組合長
真砂 佳明 さん

林業の後継者不足は長年の課題です。1ターンで雇用が生まれた時期もありましたが、子供の頃から山に入り、まきを割ったりして暮らしてきた地元の人たちとは、ペースも違い、苦勞されているのが現状です。現場で働く人のほかにも、山主（森林経営者）の後継者がいないことも深刻な問題です。しかし、これらのこともできるだけ早く解決できるように、多くの方々の力を借りながら努力しています。人も技術も後世につないでいかなければと考えています。龍神材の良さを多くの人にアピールしていきたいですね。

材」のブランド化に取り組んでいきます。木目と色合いが美しい木材として高く評価され、また森林組合が原木市場を持つことで、伐採した木材をその場で流通できることも大きな強みになっていきます。宝物は、持っているだけでは意味がありません。官民一体となって林業の発展に向け、取り組んでいます。また、森林の多様な豊かさを未来へつないでいくため、全国4番目の配分を受ける森林環境譲与税を活用した森林整備や木材利用促進などの取組を進めています。

High quality cedar and cypress trees provide economic support to the entire region. The Ryujin Forestry Union is working on branding this lumber, and has joined forces with the government to advance the forestry industry.



紀州材使用住宅

集い、つながり、学びあう 生涯学習のまちを目指して

田辺市では、「人をほぐくみ人をつなぎ 地域を創る 生涯学習のまち田辺」を生涯学習推進の基本理念として、市民の誰もが、いつでも、どこでも、自らの意思と選択によって学ぶことができるように、学びの過程を通じて人と人とながら、学びによって得た知識や技能、人とのつながりを地域づくりに生かすことができる

「生涯学習のまち」を目指しています。また、「人」と「地域」が輝き、未来につながる持続可能なまちづくりを目指して、多種多様な現代的課題や地域が抱える様々な課題を共有し、共に学びあうことで地域力を高め、地域の未来のために身近なところから行動できる人材の育成に努めています。

Tanabe City aims to bring the local communities together by focusing on lifelong learning and create a support system that would lead to future community development.



人材育成講座



田辺市立美術館



熊野古道なへち美術館



田辺市文化交流センター「たなべる」

スポーツを通じた交流人口の増加と 生涯スポーツ社会の実現を目指して

田辺市では、生涯スポーツ社会の実現を目指し、市民の誰もが気軽にスポーツに親しみ、健康で豊かな生活が送れるよう、各種スポーツ大会の実施やスポーツ・レクリエーション活動の普及、体育施設の整備等スポーツ環境の充実を図るとともに、次代を担う青少年の健全育成のため、体育連盟等関係団体と連携し、指導体制を充実させることはもちろん、総合型

地域スポーツクラブの育成、スポーツ少年団等各種競技団体への支援なども行っています。さらに、平成27年の「紀の国わかやま国体・わかやま大会」の会場となった「田辺スポーツパーク」や「市立弓道場」、令和2年に完成した「市立武道館」を中心に、県内外からのスポーツ合宿や大会の誘致による交流人口の増加と地域の活性化促進に取り組んでいます。

Centering on Tanabe Sports Park, we are working to enhance sporting opportunities in the city, increase sport-related exchanges and promote regional revitalization.



田辺スポーツパークでキャンプ中の大阪ガス硬式野球部が地元の中学生を対象に開催した野球教室の様子

学校と家庭・地域が連携して、 子育て・地域づくりを

少子高齢化や過疎化など急激な社会環境の変動により、地域コミュニティや地域活力の低下が進み、子供たちを取り巻く状況も変化しています。

こうした中、田辺市では、確かな学力、豊かな心、健やかな体とたくましい体力を育てる「基礎基本の徹底」とともに、各地区の公民館や地域の教育資源を活用し、それぞれの地域の特色を生かしながら、学校・家庭・地域が一体となって子供を育てる「学社融合の

推進」に取り組んでいます。

教育委員会の所管に属する学校（幼稚園を含む。）ごとに設置した「学社融合推進協議会」が中心となって、学校・保護者・地域住民等の間の信頼関係を深め、学校の運営の改善、児童生徒の健全育成や、地域と学校が連携・協働しながら行う地域の創生・活性化などの様々な活動を通じて、「地域に開かれた学校づくり」、「学校を核とした地域づくり」を進めています。

Schools, families and members of the community work together, using the community centers in each district and regional educational resources, in order to promote community revitalization and a well-rounded education for children.



市立弓道場



市立武道館



田辺スポーツパーク



図書ボランティアによる学習支援



梅農事体験活動

共に支え合い、 つながりを持つ地域福祉



寄り添う支援活動

田辺市では、市民一人ひとりが住み慣れた地域の中で、共に助け合い、安心して暮らせる福祉のまちづくりを進めるため、地域における民間団体の先導的な保健福祉活動を支援するとともに、「生活福祉資金貸付」や「成年後見制度」の利用促進など様々な福祉事業を実施している。田辺市社会福祉協議会や、住民の立場に立ち相談、支援を行う田辺市民生児童委員協議会と連携を図るなど、地域住民、福祉関係活動者と行政の協働により、地域福祉の推進に取り組んでいます。

また、障害の有無や年齢などに関わらず、互いの人格や個性を尊重し、支え合い、生涯を通じて安心して暮らすことができ、地域共生社会を実現するため、障害児・者相談センターや地域包括支援センターなどによる相談支援体制の充実、認知症施策の推進にも取り組んでいます。

中でも、田辺市社会福祉協議会は、行政との役割分担の下、保健福祉の総合相談窓口としての機能を発揮しています。

※³「要配慮者の見守り・声掛け活動」のほか、平成23年に設置した常設型地域リビング「よりみちサロンいおり」は、子供から高齢者、障害のある人の居場所として定着し、「生活福祉資金貸付」や「緊急食料等提供事業」、また、「権利擁護センターたなべ」の開設など、住み慣れた地域で尊厳をもって生活ができるサポート体制づくりに努めています。

※¹生活福祉資金貸付とは、安定した生活の確保を目的として低所得者・高齢者・障害のある人などを対象に資金の貸付と必要な援助・指導を行い、経済的自立や生活意欲の助長・促進、在宅福祉と社会参加の促進を図る事業です。

※²成年後見制度とは、認知症、知的障害、精神障害などにより物事を判断することが難しくなった人に代わって、家庭裁判所が選んだ成年後見人等が、財産管理や福祉サービスとの契約を行うことができる支援制度です。

※³要配慮者の見守り・声掛け活動とは、高齢者世帯や障害のある人の「家族や近所の人との連絡先」「救急に必要な事項」を記載した緊急連絡カードを家庭に備え付けておくように啓発する活動です。

※⁴緊急食料等提供事業とは、緊急的かつ一時的に、生活困窮者へ食料等の提供を行う事業です。

※⁵権利擁護センターたなべとは、成年後見制度の利用促進及び充実を図るための中核機関として、令和2年10月に開設した支援機関です。



よりみちサロンいおりで開かれているカフェ「フオレジュ」

高齢者の笑顔があふれるまちに

高齢者福祉において田辺市が最も力を入れて取り組んでいるのが、介護予防です。

高齢者人口が増え続ける中、加齢によって生じる心身の変化に向き合い、高齢者自身が有する能力を可能な限り損なわずに、明るく元気に自立した日常生活を送っていただけるような取組をしています。

運動や栄養、口腔の各種教室の開催や、身近な地域で集いの場が持てるように、集会所等で定期的に実施する「みんなで筋トレ体操」を推進しています。



みんなで筋トレ体操

In its elderly welfare system, Tanabe puts emphasis on preventative care.

障害のある人のバックアップ体制を強化

田辺市の障害者福祉は、早くから社会福祉法人等の民間の活動を行政が支援する形で取り組まれてきました。

そのため、現在では、県内でも事業所の整備が進んでいる地域となり、全国的に高い評価を受けている法人も育ち、市内だけでなく、他地域からの利用者も多くなっています。

また、社会福祉協議会、民間事業者及び行政の連携の下、障害の種類にこだわらない相談窓口を設置し、障害のある人の地域生活をバックアップする体制の強化を図っています。今後も更に充実した体制整備に取り組んでいきます。



ふれあい文化祭

Tanabe's welfare system for the disabled holds national esteem for its support towards private organizations' activities.

安心して子育てができるまちに

少子化対策の一つとして、安心して子供を産み、育てることができる環境づくりが重要です。このようなことから、待機児童を無くす取組や、障害のある子供の保育、延長保育など、保護者が安心して働ける幅広い子育て支援が求められており、様々な課題を解決できるよう行政と民間の連携を強めています。

今後も各種子育て支援事業をはじめ、学童保育の推進など、更に充実した環境づくりに取り組んでいきます。



青空広場

In the face of the country's declining birthrate, Tanabe strives to create an environment where parents can raise their children with peace of mind.

The Tanabe City government cooperates with communities and private social welfare organizations in its efforts to promote health and welfare activities. Its goal is to create an environment where all people can coexist in peace, regardless of disability, age, race, or gender.



南紀田辺インターチェンジ・田辺西バイパス
阪和自動車道（近畿自動車道紀勢線）のインターチェンジ周辺の整備により、高速道路の乗り口、芳養方面、市街地方面へと通じる道路ができ、渋滞の緩和と時間短縮が実現しました。



住民バス
路線バスの廃止等による交通不便地域において、交通手段の確保・日常生活の利便性向上のために運行しています。（龍神、中辺路、大塔、本宮地域）



一般国道 168 号 本宮道路
本宮町大居～土河屋間を結ぶバイパスです。大型車両の対向ができない場所もありましたが解消され、観光客の利便性も向上しました。



JR 紀伊田辺駅前広場
送迎用自家用車の停車による混雑の解消や公共交通機関の機能的な配置による快適な駅づくりを目的として、平成 25 年に JR 紀伊田辺駅前広場を整備しました。



都市計画道路 元町新庄線
海蔵寺地区区間の完成により、これまでの交通難所が解消されるとともに、JR 紀伊田辺駅へのアクセス機能が強化され、中心市街地の利便性が向上しました。

新庄総合公園
子供や高齢者をはじめとした多くの市民が、安心して楽しめる公園として充実した維持管理に努めています。



暮らしやすさ
安全のため
環境整備を続けます

田辺市は、集落が河川の流域ごとに分散した特有の地域構造を抱えており、これらの地域間を結ぶ道路整備や交通弱者のための効率的な公共交通サービスの提供が必要で、早急に取り組むべき課題でもあります。その中で、空洞化する市街地を再生するため、中心市街地の魅力や利便性の向上を図るとともに、便利で機能的なまちづくりを進めるためにも、道路整備は欠かせません。日常の利便性だけでなく、万が一の災害発生時への対応、そして紀南地域の経済振興に向けて整備に取り組んでいます。また、市民にとって憩いの場であるのが、23 haの敷地を持つ新庄総合公園です。「花と芸術」「水と森の野外音楽堂」「山と緑と花の谷」をテーマとして整備しました。ここでは、自然環境に親しみながら文化的活動を楽しむことができ、家族連れや様々な市民イベントにも活用されています。

Tanabe has been working on maintaining its roads to improve the attractiveness and convenience of the central area, as well as promote the regional economy, and improve disaster response capability.

市民の命を守るために 災害に強いまちづくりを推進



田辺市では、災害から市民の生命や身体、財産を守るとともに、被害の軽減を図るため、「田辺市地域防災計画」に基づき、災害予防、災害応急対策、災害復旧など総合的かつ計画的な防災行政に取り組んでいます。

近年では社会環境の変化、局地的な豪雨や台風の大規模化などの自然環境の変化も相まって、災害自体が複雑多様化するとともに、近い将来に発生が危惧されている南海トラフ巨大地震とそれに伴う津波災害は、当地方に甚大な被害をもたらすと予想されています。

こうした中、自助・共助・公助のそれぞれにおいて災害への対応力を高めるため、防災学習会を開催するなど、市民の防災意識を高める啓発活動のほか、自主防災組織による自主的な防災活動の活性化や消防団を中核とした地域の防災力の充実強化を図るとともに、あらゆる災害に対する脆弱性を克服する強靱な地域づくりを取り組むなど、災害に強いまちづくりを推進しています。

また、現本庁舎は耐震性や津波に対する立地の安全性について課題があり、市民の安全安心を支える拠点の確立に向けて、新庁舎の整備を進めています。



新庁舎完成予想図
災害対応拠点である消防庁舎等との連携が図られ、災害対策本部の運営を円滑かつ確実に進める新庁舎の整備に取り組んでいます。

Tanabe City have been working on comprehensive and systematic disaster prevention, emergency response and restoration programs in order to reduce damage and protect the lives and assets of our citizens in the event of a natural disaster. Additionally, we are proceeding with the development of a new government building that is resilient to natural disasters so that the disaster response headquarters can work to their full capacity and citizens can feel secure.

新庁舎は、津波・洪水の想定浸水域外である東山二丁目を整備計画地として、災害対策本部機能が十分に発揮でき、市民に安心感を与えることができるよう、免震構造の建物とするとともに、情報収集・発信、ライフラインの途絶時の対策等を備えています。また、指定避難所への移動の安全が確保できるまでの間、一時的に避難者の受入れを行うほか、市内各所から見える位置にあることから、近隣住民が緊急的に逃げる場所を示す灯台的役割を果たすなど「命をつなぐ」災害に強い庁舎として令和5年度末の完成を目指しています。

万が一に備えて

津波浸水ハザードマップ（津波浸水予測図）を基に、災害発生時にでぎるだけ高い場所へ避難するという意識の徹底を図るとともに、避難路の整備や津波避難ビルなど一時避難場所の選定、海抜表示板や夜間避難のための誘導灯の整備など、安全かつスムーズに避難するための取組を進めています。

また、自治会や自主防災組織をはじめ、学校や保育所・幼稚園も積極的に避難訓練を重ねています。



保育園児、幼稚園児も災害時の避難訓練に取り組んでいます。

Schools, kindergartens and day care centers perform disaster drills under the direction of professionals.



芳養地区津波避難タワー
南海トラフ巨大地震の津波浸水想定に基づく津波避難困難地域を解消するため、津波避難施設の整備などに取り組んでいます。



消防団女性団員は、火災予防の広報活動や防火啓発活動、住宅防火診断、応急手当普及啓発などを主体に活動しています。



熊野本宮大社で消防本部と自主防災組織が、合同訓練を実施しました。



毎年1月5日の出初式は、消防本部と消防団合同で行っています。

未来を見据え、 よりの良い市政を 進めるために



市議会議員選挙は、市民生活に直結した基礎自治体である田辺市の将来を託す最も身近な選挙の一つです。

人口減少・少子高齢化・災害に強いまちづくりなど地域における重要課題が山積する中、住民の直接投票により選出された議員で構成された市議会の果たす役割は、非常に大きいものがあります。

田辺市議会は、市長の提案する予算・条例などを審議、議決するとともに、市政に対する一般質問などで田辺市が進むべき方向等を導き出す役割があります。一方、市長は市議会の決定に沿って実際のまちづくりを進めていきます。

市議会には、毎年3月・6月・9月・12月に定期的に招集される「定例会」と、必要に応じて招集

される「臨時会」があります。会期中は、全議員が出席する本会議と、田辺市の仕事全体を大きく3つに分け、専門分野ごとに設置された常任委員会、また必要に応じて設置されている特別委員会などが開かれます。

また、議会広報機能の強化を図り、議会活動を広く市民の皆さんに情報発信するための広報委員会を設置しています。

議会に提案された議案は、本会議における質疑を経て、各常任委員会に付託され、慎重な審査が行われた後、本会議において採決されます。

市議会と市長は、お互いに独立した立場から協力し合って市民生活の向上に努めています。



Bills proposed in City Council first go through questioning in plenary session. After careful examination in standing committee, they return to plenary session for voting. The City Council and mayor cooperate in their independent positions to improve living conditions for Tanabe's citizens.



田辺市の市章 平成 17 年 10 月 1 日制定



この市章は、大正 10 年図案を懸賞募集し、田辺町章として選定したものを旧田辺市が引き継いできたもので、中央部は、田辺の「田」を表し、輝く星座のごとく田辺市の将来のますます発展することを象徴しています。

田辺市民憲章 平成 17 年 10 月 1 日制定

わたくしたち田辺市民は、美しい海・山・川の豊かなめぐみに感謝し、先人たちが築きあげた歴史と文化をうけつぎ、自治と福祉のこころにあふれたまちをつくるため、ここに市民憲章をさだめ、力を合わせてその実行につとめます。

1. 豊かな自然を大切にし、調和のとれた美しいまちをつくりまします。
2. 歴史と伝統に学び、教養を高め、文化のかおるまちをつくりまします。
3. スポーツに親しみ、心身ともに健康で、希望にみちた楽しいまちをつくりまします。
4. 人権を守り、たがいに助け合い、明るく平和なまちをつくりまします。
5. 時と資源を生かし、働くことを喜び、共に栄えるまちをつくりまします。

田辺市の木・花・鳥 平成 17 年 10 月 1 日指定



「うばめがし」

うばめがしは、海岸沿いから山間部までこの地に広く自生しており、荒地や傾斜地でも生育する力強さを持ち、名高い備長炭の原木として知られています。



「梅」

梅は、この地に多く栽培されており、その花は早春のころ元気よく咲き、香りは人々の心をあたたかく包みます。



「めじろ」

めじろは、この地域に広く生息し、花を渡り、実を求める姿は美しく、その鳴き声はやさしさにあふれています。



田辺市が有する広大な市域には、世界文化遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』に登録されている「熊野本宮大社」・「熊野古道」や「鬮雞神社」、日本三美人の湯として知られる「龍神温泉」、日本最古の湯といわれる「湯の峰温泉」などの温泉郷、そして梅やみかん、紀州備長炭、新鮮な魚介類等の温暖な気候や地勢に育まれた特産品など、人々の心と身体を癒やす魅力的で多種多様な地域資源が存在しています。

さらに、400 年以上にわたり高品質な梅を持続的に生産してきた伝統的な農業システム『みなべ・田辺の梅システム』が世界農業遺産に認定され、本市は全国的にも稀有な“2つの世界遺産”を保有するまちでもあります。

また、世界的博物学者である南方熊楠翁が、熊野の玄関口である城下町田辺に居を構えた理由を「至って人気よろしく、物価安く静かにあり、風景気候はよし」と日記に書き記したように、当地は、美しい海・山・川の豊かな大自然に恵まれ、さらには、古の熊野詣での時代から現在に至るまで、全ての人々をおおらかに受け入れてきた風土があります。

田辺市では、こうした多種多様な地域の特性を大切にし、それぞれの魅力を最大限に生かし、そして、その価値を高め、創造しながら、まちづくりの基本理念である「一人ひとりが大切にされ、幸せを実感できるまちづくり」を念頭に置き、未来へとつながる持続的なまちづくりを目指しています。

この市勢要覧では、田辺市の豊かな自然や魅力的な地域資源を数多く紹介しています。この要覧を通して、田辺市の魅力を発見され、そして、私たち市民が誇りと感じる豊かな郷土を実感していただければ幸いです。

田辺市長 真砂 充敏

Tanabe's rich and expansive environment soothes the body and soul, and includes onsen (hot spring) such as Yunomine, Japan's oldest onsen, and Ryujin, one of Japan's three famous beautifying onsens. The city is well known for their production of ume (Japanese plums), mikan (Satsuma orange), Kishu Binchotan charcoal, fresh seafood, and other specialty products, due to its natural features and warm climate. Tanabe's World Heritage Sites, the Kumano Hongu Taisha Grand Shrine and Kumano Kodo Pilgrimage Routes, adds to the diversity and charm of the region. World-renowned naturalist, Kumagusu Minakata, recorded in his diary the following reasons for choosing to live in Tanabe: friendly people, low costs of living in a quiet atmosphere, and nice climate and scenery. Indeed, our city is blessed with beautiful mountains, ocean, and rivers, and since the ancient days of the Kumano Kodo Pilgrimage, Tanabe's citizens have always been welcoming and generous to others. In Tanabe we cherish the diverse qualities that set our city apart. By utilizing these qualities extent, we seek to realize our vision of Tanabe as a "new major provincial city." We are working hard to establish a city of proud citizens free to lead rich, safe, peaceful lives together in kindness. This municipal guidebook introduces the many wonderful charms and rich environment of Tanabe. I hope that after reading it, you will be able to understand why we the citizens of Tanabe have such pride for our city.

Mitsutoshi Manago,
Mayor of Tanabe City

田辺市

TANABE CITY MAP



主な年間イベント



- 1月**
 - 野中の獅子舞 (中辺路町)
 - 南国紀州の雪あそび (龍神村)
- 2月**
 - 粥い神事 (稲成町)
 - 紀州石神田辺梅林開園 (上芳養)
- 3月**
 - 近野山間マラソン (中辺路町)
 - 観燈祭 (龍神村)
- 4月**
 - 熊野本宮大社例大祭 (本宮町)
- 5月**
 - 御田植神事 (稲成町)
- 5月下旬～6月上旬**
 - ホテル観賞会 (長野・伏菟野)
- 7月**
 - 大塔鮎釣り大会 (日置川上流)
 - 扇ヶ浜海開き (扇ヶ浜)
 - ぎおんさんの夜見世 (新庄町)
 - 田辺祭 (東陽)
 - 熊野古道清姫まつり (中辺路町)
- 8月**
 - ヤーヤーまつり (中心市街地の商店街)
 - 大塔地球元氣村 (鮎川)
 - 下川上の流れ施餓鬼 (下川上)
- 10月**
 - 弁慶まつり (中心市街地 扇ヶ浜)
 - 田辺花火大会 (扇ヶ浜)
 - 杵荒神社奉納祭 (中辺路町)
- 11月**
 - 熊野古道絵巻行列 (中辺路町)
 - 芳養八幡神社秋祭 (中芳養)
 - 農林水産業まつり (上の山一丁目)
 - 住吉踊 (長野)
 - 上野の獅子舞 (下川下)
 - 野中の獅子舞 (中辺路町)
 - 小家神楽 (龍神村)
 - 田辺・弁慶映画祭 (新屋敷町)
 - 翔龍祭 (龍神村)
 - 万呂の獅子舞 (中万呂)
 - こだま祭り (本宮町)
 - 八咫の火祭り (本宮町)
- 12月**
 - 龍神温泉木の郷マラソン大会 (龍神村)
 - 川湯温泉仙人風呂オープン (本宮町)